

# Asahi

ASAHI University News Letter

vol.113

January 2018

発行日/隔月1日

編集・発行/朝日大学 入試広報室

## 「建学の精神」具現化に向けて



(株)ANA総合研究所と連携協力に関する協定を締結 (左から)岡田晃代表取締役社長、大友学長

2018年を迎え、宮田淳理事長から新年の挨拶とともに、朝日大学の今年の基本方針が述べられました。

「建学の精神」の継承と具現化に全教職員一致して邁進しようというもので、地道にこれを進めていくことこそが「魅力ある大学、選ばれる大学」づくりの根幹であるとしています。また、大友克之学長、森下伊三男副学長、倉知正和副学長並びに田村康夫副学長からも、年頭所感がそれぞれ寄せられました。

## 「建学の精神」の着実な具現化

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、昨年は、アメリカ大統領に就任したトランプ大統領の「アメリカファースト」に基づくさまざまな政策や欧州における難民危機問題、さらには東アジアにおける緊張状態などの影響もあり、国際的な政治・経済情勢の不安定要因が顕在化した1年でありました。また、日本企業における不正会計処理、製品の無資格検査など、日本の「ものづくり」への信頼感が強く問われた年でもありました。資源を持たないわが国においては、「ものづくり」に対する早期の信頼回復が望まれます。昨年10月に行われた衆議院議員総選挙により、現行の連立政権が引き続き政権を担うこととなりましたが、消費税増税を財源とする教育の無償化など数多くの課題に対する早期の対応が期待されます。

しかしながら、この2月に開催される平昌オリンピック、そして2020年の東京オリンピックに向けて、若い力の活躍には目覚ましいものがあります。文武両道を掲げる本学においても、体育会ラグビー部が、東海・北陸・中国・四国代表として全国大学選手権に出場し、3回戦で惜しくも敗れ8強を逃すも、地方の大学が「関東のチームに勝つ」という目標にさらに近づきました。「大学生と社会人の融合」をスローガンに体育会ホッケー部員と同部OBを中心とした社会人のチームである岐阜朝日クラブは、日本リーグH1(1部)において見事初優勝を成し遂げました。また、会計研究部では、6名が公認会計士試験に合格し、創部6年ではありますが、4年連続で計21名が合格するという成果を上げました。

本学においては、この1月に開催される理事会において、2018年度事業計画及びこの事業計画を実行するための予算の承認を得る予定となっております。2017年度は、4月にスタートした保健医療学部健康スポーツ科学科をはじめ、すべての学部・学科において入学定員を充足することができました。引き続き、本学に対する社会的な評価と認知度をさらに高め、アドミッションポリシーを広く社会に周知するとともに、学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性)を多面的・総合的に評価する入学選抜試験の実施をはじめ、教育・研究活動及び施設や設備など

## 激変する世界のなかで

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はアメリカでドナルド・トランプ政権が始動し、時を同じくしてヨーロッパでも政治的に急進化、大衆迎合の潮流が顕在化した一年でした。一方隣国の中国では5年に一度の共産党大会が開かれ、新たに習近平思想が盛り込まれるなど、より社会の現実を反映しつつ権力基盤を強化する動きが見られました。

その中国とわが国のあいだで国交正常化45周年を迎えました。それに先んじること10年前に岐阜市と杭州市が日中不戦の誓いを交わしてから55年という節目を記念し、昨年9月には岐阜市の国際交流事業として結成された「岐阜日中友好青年訪中団」に、本学より学生ならびに教職員が参画しました。そして同年11月には「朝日大学・岐阜新聞社合同青年訪中団」を組織し、杭州マラソンに学生ならびに教職員を派遣しました。歴史的な景勝地としても有名で、一昨年にはG20が開催された国際都市杭州の発展を目の当たりにした学生諸君は多くのことを吸収して戻ってきました。とくにアリババの本社を訪問、フィンテック(金融技術)の革新によりキャッシュレスの社会を実現している姿には、過去、中国が我が国にとって経済支援対象国であったなどという面影すらありません。

歯学部の国際交流では、海外協定校との相互学生派遣を継続しています。30年以上にわたり交流を継続している北京大学口腔医学院からの教員・学生の受け入れについては2017年度も科学技術振興機構(JST)が主管する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業-さくらサイエンスプラン」に採択されました。また、2016年度の「さくらサイエンスプラン」に採択された北京大学からの歯科専門看護師受入れ事業から新しい展開が生まれ、2017年10月には

の学修環境のすばらしさを社会にアピールすることで、優秀な学生の受け入れに努力してまいります。

歯学部においては、臨床に強い歯科医師を養成するとともに国家試験合格率の向上に引き続き取り組んでまいります。また、本学の三医療機関は、地域の医療拠点として地域住民の方々の健康の維持・増進に努めてまいります。保健医療学部健康スポーツ科学科においては、設置計画の着実な履行に努めてまいります。同学部看護学科は、この3月に初めて卒業生を送り出すこととなりますが、卒業生全員の国家試験合格を目指しております。法学部では、主権者教育や男女共同参画社会の実現に向けた教育の実施など、さらに地域との連携を図ってまいります。経営学部では、高等学校等との連携による商業教育の充実などを通じて地域との連携を充実するとともに、引き続き会計教育に力を注いでまいります。これらの実行のためには、学長の強いリーダーシップの下、各学部自らがそれぞれの個性、特色を活かし、資格取得や国家試験合格率の向上に努めていかなければなりません。また、FD・SD研修のさらなる充実により教職員の資質向上を図り、教職協働による学生支援の充実を図ることも大変重要なことだと認識しております。そして地域と共に生きる大学として本学は、地域社会への貢献に今年も全力を挙げてまいります。

18歳人口の減少により、大学をとりまく環境はますます厳しさを増していますが、本学は、今後も「建学の精神」を着実に具現化していくことで、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間の知性を身につけた卒業生が社会から評価され、国際社会で活躍することを信じています。

本年も皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



理事長 宮田 淳

本学歯科衛生士専門学校教員2名が北京大学に招かれ教育講演をし、同年12月には新たに歯科衛生士の養成分野に関する学術交流協定を同大学歯学部、本学ならびに歯科衛生士専門学校との間で締結しました。他方、学部教員の海外での研究活動についても積極的に促進しました。UCLA、タフツ大学、ペンシルベニア大学、UCSFといった世界トップクラスの大学での基礎研究成果は、必ずや臨床や学部・大学院教育へと還元されるものと信じております。本年も若手教員の留学を支援して参ります。

岐阜県内の商業高等学校との連携に基づき3+4年間の高度会計人材の育成にも力を注いでいます。取組みから満6年を迎えましたが、早くも21名の公認会計士試験合格者を輩出するという目に見える成果をあげております。現役で合格を果たした先輩が後輩を指導していく、そういった好循環に、朝日大学の新しい伝統の萌芽を見ることができそうです。

「国際未来社会で活躍し得る人材の育成」を建学の精神に掲げる本学では、本年も激変する内外の情勢を学生諸君に正確に伝え、自由闊達な議論を経て、自分なりの意見を持つことを進めていくとともに、知の拠点としてさまざまな機会を通じて地域社会へ発信し続けて参りたいと考えております。

本年もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



学長 大友 克之

## 選ばれる大学、魅力ある大学をめざし

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は4月に保健医療学部健康スポーツ科学科が開設され、また、同学部看護学科は完成年度を迎えました。本年は、看護学科1期生による初めての国家試験受験、そして、卒業生を世に送り出す年となりました。看護学科生には入学後からトップランナーとして、周囲からの期待と1期生としての責任を感じてきた4年間ではなかったかと思えます。また、学科の運営や学生の指導にあたってきた教職員・事務職員にも敬意を表したいと思えます。健康スポーツ科学科についても、完成年度まで同様に大変な事もあると思いますが、オール朝日として関係各位のサポートを得て発展していくことを期待しております。

大学では、人間として幅広い能力の育成が求められており、平成20年には中央教育審議会が学士力の育成についても言及されております。一方、平成25年度改訂の高等学校学習指導要領に基づいて教育を受けてきた学生は、

これまでとは質的に大きく異なっていることが指摘されております。そのような学生の学士力を培うために、専門教育と共に教養教育の重要性も指摘されております。本大学では、昨年、外部有識者を含む教養教育評価会議が開催され、今後の教養教育の方向性が示されました。学長のリーダーシップの下に教養教育の質的転換を図り、建学の精神の具現化を目指していきたいと考えております。

皆様の御理解と御支援を賜り、「魅力ある大学」として更なる発展を目指してより一層の努力をしていく所存です。どうぞ本年も宜しくお願いいたします。



副学長 森下 伊三男

## 間断のない教育改革の推進

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、今年度は、新たに開設された保健医療学部健康スポーツ科学科そして初めての卒業生を送り出す同学部看護学科も含めて、本学の全学部学科で入学定員が充足されました。これは学長の強いリーダーシップの下に行われてきた種々の取り組みの成果だと思えます。一方、大学に対する社会の期待は益々高くなってきており、本学に対しても建学の精神の下に行われている「教育」、「研究」そして「医療」を通して、多様で大きく変化していく社会のニーズに、高いレベルでの対応を積極的に果たすことが求められています。そんな中、AIの多方面にわたる応用実績や可能性が報じられ、今後のシンギュラティの時代において、さらなる加速が推察される”職業・仕事・労働の変化”にも、確実に対応可能な教育の推進が必須の課題となっております。そのため各学科では、高大接続システム改革会議が掲げる「学力の3要素」を

基本的考え方として、課題解決型人材育成を視点に特徴ある教育改編が行われてきました。これからも止まることなく、各学科が持つ良質な人的資源の相互依存・協力関係をより充実させ、加えて、全学科がより高い到達目標を掲げて、PDCAサイクルに基づいた新たな取り組みと確かな成果の実現を目指した改革・改善を、間断なく推し進めて行くことがさらに必要と考えております。

教職員の皆様方のお一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



副学長 倉知 正和

## 新“元号”への夢

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2019年4月30日をもって平成天皇がご退位され、翌5月1日から今の皇太子様が即位されることが決まりました。そのため、本2018年のビッグイベントとして、年中頃には次の元号が発表されることになりました。

新元号で思い出すのは、1985年の岐阜歯科大学から朝日大学への大学名の変更の際に起こった様々な出来事です。岐阜歯科大学が創立されて10年余り、同窓会も設立10年を迎えようとしていました。大学は、経営学部と法学部を新たに開設し総合大学にするため、岐阜歯科大学から別の大学名に変更することになり、変更は誰しもがやむを得ないと考えていましたが、旧名や岐阜の名にこだわる者も少なからずいました。結局ローカルな名称は採用されず「朝日大学」となり、大学名と岐阜の名称が消えたことで、卒業生のほとんどは

ルーツを失った一抹の寂しさを感じていました。しかしこれが、ある時期を境にピクッとなくなり、逆にある期待へと変わったのです！

それは「昭和」の次の元号が「朝日」になるらしいよと、まことしやかに云われたのです。昭和天皇が崩御され1989年1月7日にその時がやってきました。関係者の多くが「朝日・朝日…」と念じながら当時の小淵官房長官が発表する新元号に注目しました。結果は「平成」、でも忘れたい夢を見させてもらいました。本年発表される次の元号は、果たして?皆さん、30年ぶりの夢を一緒に見ましょう！



副学長 田村 康夫

### 謹賀新年

法学部長(兼)法学研究科長 大野 正博  
経営学部長 岩崎 大介

経営学研究科長 板谷 雄二  
保健医療学部長 藤本 次良  
歯学部(兼)歯学研究科長 江尻 貞一  
留学生別科長 横山 博信

附属病院長 永原 國央  
附属村上記念病院長 大橋 宏重  
PDI岐阜歯科診療所長 藤原 周  
事務局長 高橋 偉茂

## ANAと連携協力

航空運輸産業を含むツーリズム産業で活躍しうる人材の育成に寄与することを目的とし、ANAグループを代表し(株)ANA総合研究所と本大学が、相互の人的・知的資源の交流と活用について連携協力し合うことに合意し、「連携協力に関する協定」を締結しました。

### 人材育成で連携協力



人材育成に貢献したいと語る岡田社長

調印式後、同社代表取締役社長の岡田晃様、宮田淳理事長、大友克之学長ら関係者が出席した第1回の連携協議会では、学生を対象としたキャリア講義へのANAグループからの講師派遣、中部国際空港などで同グループが実施する夏季インターシップへの学生の参加などについて協議が行われました。

岡田社長は「ANAグループのノウハウを活用し人材育成に貢献したい」と、また、大友学長は「相互の能力を発揮し、地域へ多くの人材を輩出していきたい」と期待を語られました。

## (株)セイノー商事と「コラボ企画商品」を開発!!

穂積キャンパス5号館会議室において、(株)セイノー商事と経営学部で商品開発を学ぶ学生がコラボして企画・開発したセルフ型商品の成果報告会



学生らが成果報告を行う

が開催され、同社ならびに商品製造会社の関係者や学生ら約50名が出席しました。

今回のコラボ企画は、セイノーホールディングス(株)と朝日大学が、2013年2月に産学連携活動に関する協定を締結し、各種の産学連携活動を進めていく中で、マーケティング分野における連携活動の一環として実施されたものです。

これまでお中元、お歳暮に向けたギフト商品として「柿のお茶会」「清流の匠」が開発されましたが、第三期の今回は特定製造会社の商品を組み合わせたセルフ型の5セットで、すべてに学生考案のレシピが付いたものとなりました。

成果報告会では、商品開発に取り組んできた学生から、開発プロセスについての説明と、商品概要、開発商品に込めた思いなどが報告されました。学生たちは、コラボ企画を通じ、実践的に商品開発のプロセスを学び、現実のビジネス課題に向き合うことで、チームとして行動していくことの大切さ、改善を繰り返すことの重要性を学ぶことができました。

## 高大連携で「公認会計士試験」6名合格

体育会会計研究部所属の学生6名(大学院経営学研究科研究生2名を含む)が、「公認会計士試験(論文式試験)」にみごと合格しました。

公認会計士試験は「短答式試験」と「論文式試験」の2段階で行われ、学生たちは合格率11.2%(出願者11,032名のうち1,231名合格)の超難関試験である「論文式試験」に挑み、みごと同試験突破を成し遂げました。

### 高大連携による成果

本大学では、商業教育の推進をめざし岐阜県高等学校商業校長会との連携協定を締結し、高等学校と大学の7年間で公認会計士をはじめとする高度な会計資格に挑戦し合格できるよう、2012年度から充実した会計教育を行っております。



みごと「公認会計士試験(論文式試験)」に合格

## 商業教育で高大連携

### 財務の分かる人材育成

岐阜県高等学校商業校長会と本大学との高大連携事業の一環として、穂積キャンパス6号館大講義室で岐阜県立岐阜商業高等学校2年生の400名を対象とし「企業財務の見方について」と題したオープンスクールが開講されました。

同スクールでは公認会計士で体育会会計研究部の小島一富士監督が講師を務め、同部所属の学生30名がサポーターとして加わり、企業の財務諸表に基づき経営状況を分析する実践的な講義が展開されました。岐阜県内の商業高校教諭ら約20名が視察するなか、生徒たちは真剣な表情で実践的な簿記の講義を受講していました。



高校生たちに講義する小島監督

## 教育功労者知事表彰を受賞

「第20回岐阜県私学振興大会」において、森下伊三男副学長ならびに倉知正和副学長が、岐阜県私立学校教育功労者知事表彰を受賞されました。

本表彰は、私立学校教育に関し特に功績があった者を表彰し、その功労をたたえ、私立学校教育の振興をはかることを目的とするものです。



知事表彰を受ける森下副学長(左)と倉知副学長(右)

### 学会学術大会で受賞

「第59回歯科基礎医学会学術大会」において、歯学部歯科薬理学分野の水越堅詞先生が、歯科基礎医学会学術奨励賞を受賞されました。

筆頭著者として発表された研究論文「Shh/Ptch and EGF/ErbB cooperatively regulate branching morphogenesis of fetal mouse submandibular glands」が高く評価されての受賞です。

また、「第12回アジア・太平洋地区歯周病学会学術大会」において、大学院歯学研究科(歯周病学専攻)の森永啓嗣先生が、基礎研究部門のポスター発表において最優秀賞を受賞されました。

歯周病学の最新の研究・臨床を紹介する学会において「老化と歯周炎」に関する画期的な研究が高く評価されての受賞です。



学術奨励賞を受賞の水越先生(右) 最優秀賞を受賞の森永先生(左)

## 「産学連携授業」を開講

穂積キャンパス5号館講義室で、セイノーホールディングス(株)と本大学が2013年に締結した「産学連携協定」に基づき「業界研究会特別講演会」が経営学部必修科目「キャリア形成I」の授業として開講されました。

### 企業の求める人財とは

キャリア教育の一環として開講された授業では、同社人事部人材開発担当部長の岡本征也様をお招きし、「働くとは?ダイバーシティと企業の求める人財」をテーマに、「知っていることとできることの違い、働くことの意義、企業が求める人財、失敗を学びとして捉えること、出身大学に対して愛学心をもつべきこと」など大変貴重な話を学生たちにさせていただきました。



岡本先生から働くことの意義を学ぶ

## 「税を考える週間」

法学部では、「キャリア形成I・II」の授業の一環として名古屋国税局課税第一部長の坂東正啓氏を講師に迎え、「税を考える」と題した講演会を穂積キャンパス5号館講義室で開講されました。

この講義は、国税庁の「税を考える週間」の広報活動の一環として毎年行われており、本大学での開講は今回で10回目となります。

### 税務署の仕事や我が国における税を学ぶ

講義では、税務署の各部門の仕事内容の紹介と共に、我が国における税と予算、財政の状況と課税ベースによる税の分類、所得税、消費税、法人税、相続税などの課税の仕組みについてアルバイト収入を例にあげ具体的に分かりやすい解説をいただきました。



坂東氏が「我が国における税と予算」を解説

受講した約70名の学生たちは、初めて聞く税金や税務行政の解説に興味深く熱心に聞き入っていました。

## 貴重図書への寄贈を受ける

次のとおり貴重図書の寄贈を受けました。

『航空産業入門』第2版(東洋経済新報社) 2017

『エアラインオペレーション入門』改訂版(ぎょうせい) 2015

本大学と(株)ANA総合研究所との間で連携協定が締結された折に同研究所の著書を寄贈していただきました。

『航空産業入門』は、航空の歴史から最新の航空企業の戦略、業務知識について幅広く収録されており、グローバル化時代の航空産業界を展望するために役立つ1冊です。

また、『エアラインオペレーション入門』は、航空現場の実務者が、各職種の業務やエアラインのオペレーションについてイラストや写真入りでわかりやすく解説した図書です。航空産業に興味のある方、就職を目指している方に役に立つ入門書の決定版です。

皆様のご利用をお待ちしております。

## 高等学校商業科教員採用試験に 2名合格

亀山優さん(経営  
学科4年、体育会会  
計研究部)と堤陵  
太さん(ビジネス企  
画学科4年、体育会  
バレーボール部)が  
それぞれ、岐阜県と



教員採用試験に合格した亀山さん(右)と堤さん(左)

北海道の平成30年度教員採用試験に現役で合格しました。

それぞれの学科で学び、かつ体育会でも活躍する両名は、教職課程を履修し教職教養、一般教養、専門科目、論作文、面接(個別、集団)、適性検査等の試験勉強に取り組み、難関の教員採用試験にみごと現役合格をはたしました。

この吉報は教職をめざす後輩達に「やればできる」という自信と希望を持たせてくれました。

## ～ようこそ朝日祭へ～

「第47回朝日祭」が穂積キャンパスで2日間にわたり開催され、地元の方々をはじめ多くの来場者でにぎわいました。

今年度の大学祭では、7つの色(法学部、経営学部、看護学科、健康スポーツ科学科、歯学部、留学生別科、歯科衛生士専門学校)それぞれが主人公となって混ざり合い、一つの輝く虹を創り出して朝日大学となるという思いが込められた「RESTART」がテーマに掲げられました。

穂積キャンパスには学園祭定番の模擬店、各種コンサート、ピンゴ大会、学友会クラブや教職員らによる活動報告なども行われ、若者たちのエネルギーがみなぎった「朝日祭」となりました。

### ブック・リユース市を開催



売上金を日本赤十字社に寄付

朝日祭では、図書館ブック・リユース市が開催されました。学内関係者、地域の小学生からお年寄りまで多くの方に利用(購入)いただきました。

ブック・リユース市での売上金は、すべて日本赤十字社に寄付を行いました。



NPO法人なかよしクラブみずほのダンス



歯科衛生士専門学校の模擬店

## 海外の歯学部学生を受け入れ

朝日大学では、一昨年度から3年連続で国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」の支援をうけ、姉妹校協定を締結し相互の学生・教員交流を行っている北京大学口腔医学院(中国)からの短期海外研修の受け入れを行いました。

口腔医学院の学生たちは、穂積キャンパス内の歯学部や附属病院で最先端の歯科医療を学ぶと共に、同機構の科学技術支援情報提供事業である日本科学未来館などを訪問しました。

### さくらサイエンスプラン

「さくらサイエンスプラン」とは、日本とアジアの科学技術の発展と青少年の交流を目的とし、日本の科学技術分野の最先端技術を紹介するために優秀なアジアの青少年を短期的に招へいしている大学や企業・団体等への支援を行うプロジェクトです。



在宅訪問診療の現場を視察

## 病院ボランティアが車いすを 清掃・点検

村上記念病院では、車いすを利用される患者さんに、安全でより快適に利用してもらいたいとの思いから、車いすの清掃と点検活動に取り組みました。

毎日患者さんが使用される車いすですが、細かな部分の清掃までは出来ていないのも現状です。当日は、車いすの取扱いなどを専門にされているボランティアグループ「宙」のメンバーのみなさんと職員が待合ホールに集まり、まず汚れを丁寧にふき取る作業から行いました。清掃することにより故障箇所の発見にもつながります。約2時間を掛け30台程の車いすの清掃と点検を終了しました。

職員一同、ピカピカになった車いすに感激したと同時に、綺麗になったこの車いすに乗る患者さんに思いを馳せながら、車いすの清掃と点検のボランティア活動を実施できたことに、充実感を感じました。



ボランティアメンバーと車椅子を清掃・点検

## 「えひめ国体」で4種目優勝

2020年東京オリンピック開催を3年後に控え、「愛顔つなぐえひめ国民体育大会(第72回)」が開催されました。「君は風 いしづちを駆け瀬戸に舞え」をテーマに愛媛の地で体育会の選手たちが大活躍し、大会を盛りあげると共に朝日大学の名を広くアピールしました。

インカレチャンピオンでもある自転車競技部の小原佑太選手は、圧倒的な力を発揮しスプリントとチームスプリントの2種目での優勝をはたしました。



2種目制覇の小原選手

フェンシング	女子フルレ団体	優 勝	梅田 妃里 選手 (朝日大学職員)
ボウリング	女子団体(2人チーム)	優 勝	入江 菜々美 選手 (ビジネス企画2年:三重)
自転車競技	スプリント	優 勝	小原 佑太 選手 (ビジネス企画4年:青森)
		8位入賞	長谷部 龍一 選手 (ビジネス企画3年:岐阜)
	1kmタイムトライアル	8位入賞	栗山 和樹 選手 (ビジネス企画2年:岐阜)
	スクラッチレース	5位入賞	佐々木 真吾 選手 (ビジネス企画4年:栃木)
	4km団体追抜競走	8位入賞	永田 吏玖 選手 (ビジネス企画2年:岐阜)
		8位入賞	浦田 真成 選手 (ビジネス企画4年:岐阜)
	チームスプリント	優 勝	小原 佑太 選手 (ビジネス企画4年:青森)

## ラグビー

### 大学選手権で勝利

「東海学生ラグビーリーグ戦」8連覇を達成した体育会ラグビー部は、徳山大学(山口県)との東海北陸・中国四国代表決定戦を制し、6年連続となる「第54回全国大学ラグビー選手権」への出場を決めました。



秩父宮ラグビー場で流通経済大学と対戦

パロマ瑞穂ラグビー場(愛知)とグローバルアリーナ(福岡)で行われた1・2回戦では、東北学院大学と強豪福岡大学を撃破。秩父宮ラグビー場(東京)で行われた流通経済大学戦では、善戦するも全国の壁は厚く、3回戦での惜敗となりました。

ラグビー部の来シーズンでの成長と活躍に期待すると共に、応援くださった皆様にお礼を申し上げます。

## ホッケー

### 2冠を達成、王座に輝く!

(公財)ぎふ瑞穂スポーツガーデンのチームで体育会ホッケー部の卒業生が多く所属する岐阜朝日クラブが「第91回全日本ホッケー選手権大会」において、激戦を征しみごと優勝を勝ち取りました。91回目の歴史ある同大会で岐阜県勢初の快挙です。

また、岐阜朝日クラブBLEU DEVILS(岐阜朝日クラブと体育会学生の混成チーム)がホッケー日本リーグにおいて、年間チャンピオンに輝きました。

朝日大学ホッケー部関係のチームが今年度の大会で2冠を獲得する活躍となりました。



岐阜朝日クラブがホッケー日本リーグで初優勝

## フェンシング

### インカレ女王に輝く!



学生チャンピオンに輝いた佐々木選手

「2017全日本学生フェンシング選手権大会」が駒沢体育館(東京)で開催され、体育会フェンシング部の佐々木光選手(ビジネス企画4年:島根)は、女子個人サーブル種目で、みごと初優勝を遂げ学生チャンピオンに輝きました。

予選リーグを全勝で1位通過した佐々木選手は、決勝リーグを順調に勝ちあがり、準決勝で日本大学の選手を、決勝では日本体育大学の選手を圧倒しインカレ女王の座をつかみました。

また、シードで準々決勝から出場した女子団体サーブルでは、法政大学、早稲田大学の古豪を撃破し、決勝で日本大学に惜しくも敗れはしたものの準優勝の成績を収めました。

## 杭州マラソンを完走

経営学部学生5名が「2017年朝日大学・岐阜新聞社合同青年訪中団」として中国杭州を訪れ、マラソンに参加するとともに、同市にある「日中不再戦」の碑文を訪れ不再戦を願いました。



学生たちは、3万人のランナーの中 杭州マラソンを完走した訪中団「ハーフマラソン」部門にエントリーし、みごと全員が完走をはたしました。

同訪中団は、日中国交正常化45年および岐阜市と杭州市碑文交換55周年記念事業として、杭州マラソンに岐阜から派遣され、スポーツを通じて両国の友好を深めるとともに、若い世代での新たな交流のあり方も探ることを目的に結成されたものです。

## NEWS

## 「思い」を英語で主張

「第33回高等学校英語弁論大会」(後援:岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞社、NHK岐阜放送局、沖縄県教育委員会)が、穂積キャンパス5号館講義室で開催されました。

33回目を迎えた本大会へは、岐阜県、愛知県、滋賀県、沖縄県ほか県内外42の高等学校から78名の応募があり、厳正なる一次審査を通過した26名の生徒が出場し、ジェスチャーやユーモアを交えた英語スピーチを披露しました。

## レベルアップするスピーチ能力

弁論大会の審査は、発音やアクセントだけではなく、スピーチ内容や表現力等が総合的に評価され、その結果、「日本伝統文化の逆輸入」をテーマに発表した永山萌さん(岐阜県立加納高等学校)が「最優秀賞」の栄冠に輝きました。

長年弁論大会の審査に携わる先生方からは、「スピーチ能力や表現力が年々レベルアップしており、発表が楽しみだ」との声が聞かれました。



受賞者たちが笑顔で記念撮影

## 英語教育研究セミナーを開催

朝日大学の建学の精神である「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間の知性に富む人間の育成」の理念のもと、英語教育に携わる関係者との連携をはかると共に、教育手法の向上と英語教育のさらなる発展をめざす「第9回英語教育研究セミナー」が穂積キャンパス5号館講義室で開催されました。

## 米国大統領選挙が語られる

同セミナーでは、大学英語教育学会名誉会長の小池生夫先生(明海大学名誉教授)を講師に招へい。ガラパゴス化からグローバル化への転換が求められる日本の英語教育の現状を取り上げながら「世界的視野から見た日本の英語教育改革への道ーガラパゴスからグローバルへー」と題した講演が行われ、約100名の参加者たちは真剣なまなざしで講演に聞き入っていました。

また、ウェルカムレセプションが開催された会場では、和やかな雰囲気の中、参加者たちは日頃の英語教育に関する悩みや教育のあり方などについて質疑応答や活発な情報交換を行っていました。



小池先生が英語教育改革への道を解説



## 「国際交流の集い」を開催

本大学学部・大学院や留学生別科日本語研修課程で学ぶ外国人留学生、教職員らが参加した「国際交流の集い」が、穂積キャンパス6号館食堂で開催され、約140名の参加者たちが相互の理解や親睦を深めました。



プレゼント抽選会で学長賞をゲット

## 国際交流の架け橋となれ

この集いは、本大学の国際交流委員会が毎年開催している行事。今回も立食による懇談・懇親が行われ、留学生と教職員たちが笑顔で談笑し交流を深めました。また、恒例となったプレゼント抽選会では、当選者が発表されるたびに大きな歓声や拍手がわき起こり、会場内の雰囲気を一層盛り上げていました。

留学生たちが朝日大学での充実したキャンパスライフを送り、将来、日本や世界との架け橋となる人材に育つことが期待されます。

## 歯学部同窓会40周年を迎える



盛大に記念式典が開催される

昭和52年4月に発足した歯学部同窓会(中嶋正人会長)が創立40周年を迎え、「懐かしの学び舎、穂積に集まろう」のスローガンのもと、棚橋敏明

瑞穂市長、日本歯科医師会役員をはじめとする多くの来賓をお招きし、岐阜都ホテルにおいて記念式典・祝賀会が盛大に開催されました。

同窓生たちは記念式典翌日に、日々成長・発展を遂げ現在4学部5学科の学生たちが学ぶ穂積キャンパスの大学見学ツアーに参加。歯学部関連施設を中心に思い出を語りつつ、学内を散策しました。

歯学部同窓会は現在、北海道から沖縄まで全国35支部、約5,800名もの会員を擁する組織となり、今後益々の発展が期待されます。